

【第1部】基礎編

Q1. 答え：反実仮想

解説：「ませば〜なまし」。「月を見たならば、心が慰められるだろうに」。

Q2. 答え：反実仮想

解説：「(未然形) ば〜まし」。「来たら」は未然形で、未然形+「ば」は「もし〜ならば」の仮定。「春が来たならば、花が咲くだろうに」。

Q3. 答え：ためらい・迷い

解説：「いかに」+「まし」。「どうしたらよいだろうかと、心が迷う」。

Q4. 答え：反実仮想

解説：「ましかば〜なまし」。「知っていたならば、教えたであろうに」。

Q5. 答え：ためらい・迷い

解説：疑問詞「いづれ」+「まし」。「どちらの道を行ったらよいだろうか」。

Q6. 答え：反実仮想

解説：「ば〜まし」。「春が過ぎたら、人々はみな嘆くだろうに」。

Q7. 答え：反実仮想

解説：「ましかば〜なまし」。「心ある人に尋ねたならば、答えてくれただろうに」。

Q8. 答え：ためらい・迷い

解説：「いかが」+「まし」。「どうしたらよいだろうかと、独りため息をつく」。

Q9. 答え：反実仮想

解説：「ば〜まし」。「風が吹いたならば、波が立つだろうに」。

Q10. 答え：反実仮想

解説：「ましかば〜まし」。「あら」はラ変「あり」の未然形、「渡ら」は四段「渡る」の未然形。「舟があったならば、この川も渡っただろうに（実際は舟がないので渡れない）」。

Q11. 答え：反実仮想

解説：「ましかば〜まし」。「やは」は反語（〜だろうか、いや〜ない）。「こうなるだろうと知っていたならば、行っただろうか、いや、行かなかっただろう」。反語は「やは」のはたらきで、「まし」の用法は反実仮想。

Q12. 答え：反実仮想

解説：「ましかば〜まし」。「読ま」は四段「読む」の未然形（「まし」は未然形に付く）。「書物を読んでいたならば、物事の道理もわかっただろうに」。

Q13. 答え：反実仮想

解説：「(未然形) ば〜まし」。「知ら」は四段「知る」の未然形+ば（仮定）。文末の「を」は「〜のに」と残念な気持ちを表す。「こうと知っていたならば、私も（歌を）詠んだだろうに」。

Q14. 答え：反実仮想

解説：「ば〜まし」。「親に尋ねたならば、答えただろうに」。

Q15. 答え：ためらい・迷い

解説：「いかなる」+係助詞「か」+「まし」（「か」の結びで連体形）。「どのような歌を詠もうかしら」。

Q16. 答え：反実仮想

解説：「ましかば～まし」。「住ま」は四段「住む」の未然形。「ざら」は打消「ず」の未然形。「月の都に住んでいたならば、年をとることもなかっただろうに」。

Q17. 答え：反実仮想

解説：「ば～まし」。「詠ま」は四段「詠む」の未然形＋ば。「めで」は下二段「愛づ」（ほめる）の未然形（「まし」は未然形に付く）。「私が歌を詠んだなら、人も（その歌を）ほめただろうに」。

Q18. 答え：ためらい・迷い

解説：「まし」＋「や」（疑問）。「山に登ろうかと迷う」。

Q19. 答え：反実仮想

解説：「ましかば～まし」。「知ら」は四段「知る」の未然形。「あなたの心を知っていたなら、いっそう恋しく思っただろうに」。

Q20. 答え：反実仮想

解説：「ば～まし」。「くやしから」は形容詞「くやし」の未然形。「今さら知ったならば、くやしきただろうに」。

【第2部】標準編

Q21. 答え：反実仮想

解説：「ましかば～まし」。「学問せ」はサ変「学問す」の未然形。「賢から」は形容詞「賢し」の未然形。「幼い時から学問をしていたならば、どんなに賢かっただろうに」。

Q22. 答え：反実仮想

解説：「ましかば～まし」。「吹か」は四段「吹く」の未然形、「ざら」は打消「ず」の未然形。「風が吹かなかったならば、波は静かだっただろうに（実際は風が吹いて波が立っている）」。

Q23. 答え：ためらい・迷い

解説：「いづち」（どちらへ）＋係助詞「か」＋「まし」（「か」の結びで連体形）。「どちらへ行こうかしらと思い悩む」。

Q24. 答え：反実仮想

解説：「ば～まし」。「私も見たならば、悲しいだろうに」。

Q25. 答え：反実仮想

解説：「ましかば～まし」。「癒え」は下二段「癒ゆ」の未然形。「仏に祈っていたならば、病気も治っただろうに」。

Q26. 答え：ためらい・迷い

解説：「何か」＋「まし」。「何か」は「何を～か」の意味で、係助詞「か」の結びで「まし」は連体形。「何を言おうかと心が迷う」。

Q27. 答え：反実仮想

解説：「ましかば～まし」。「君を見ていたなら、嘆かなかっただろうに」。

Q28. 答え：反実仮想

解説：「ば～まし」。「荒れ」は下二段「荒る」の未然形、「ざら」は打消「ず」の未然形＋ば。「漕が」は四段「漕ぐ」の未然形。「海が荒れていなかったならば、舟を漕ぎ出しただろうに」。

Q29. 答え：ためらい・迷い

解説：「宿り」（四段「宿る」の連用形）＋係助詞「や」＋「せ」（サ変「す」の未然形）＋「まし」（「や」の結びで連体形）。「今夜はここに泊まろうかしら」。

Q30. 答え：反実仮想

解説：「ば～まし」。「究め」は下二段「究む」の未然形。「尊から」は形容詞「尊し」の未然形。「私が仏の道をきわめたならば、どんなに尊いことだろうに」。

Q31. 答え：反実仮想

解説：「ならば～まし」。「月の都の人ならば、今帰るであろうに」。

Q32. 答え：反実仮想

解説：「ましかば～まし」。「命が長かったなら、どんなに楽しいだろうに」。

Q33. 答え：反実仮想

解説：「ば～なまし」。完了「ぬ」未然「な」＋「まし」。「雨が止んだなら、出かけただろうに」。

Q34. 答え：反実仮想

解説：「ましかば～なまし」。「会は」は四段「会ふ」の未然形。「晴れ」は下二段「晴る」の連用形、「な」は完了「ぬ」の未然形。「あの人に会っていたならば、物思いも晴れただろうに」。

Q35. 答え：ためらい・迷い

解説：「いかにして」（どのようにして）＋「まし」。「知らせ」は下二段「知らせ」の未然形。「どのようにして、この思いを（あの人に）知らせようかしら」。

Q36. 答え：反実仮想

解説：「ましかば～まし」。「若から」は形容詞「若し」の未然形、「成さ」は四段「成す」の未然形（「まし」は未然形に付く）。「私が若かったならば、何事も成し遂げただろうに」。

Q37. 答え：ためらい・迷い

解説：係助詞「や」＋「まし」（「や」の結びで連体形）。「しようかしら、しないでおこうかしらと迷うことは、たいていは、しないほうがよいのである」。（徒然草・第九十八段）

Q38. 答え：反実仮想

解説：「ましかば～まし」。「見」は上二段「見る」の未然形。「思ひ出で」は下二段「思ひ出づ」の未然形。「月を見ていたならば、あの人のこと思い出しただろうに」。

Q39. 答え：ためらい・迷い（反語的）

解説：「何せまし」。「今さら何をしようか」。

Q40. 答え：反実仮想

解説：「ましかば～なまし」。「散り」は四段「散る」の連用形、「な」は完了「ぬ」の未然形（「ぬ」は連用形に付く）。「春雨が降っていたならば、桜は散ってしまっただろうに」。

Q41. 答え：反実仮想

解説：「ば～まし」。「知ら」は四段「知る」の未然形＋ば。「私が知っていたならば、まずあなたに話しただろうに」。

Q42. 答え：反実仮想

解説：「ましかば～まし」。

Q43. 答え：ためらい・迷い

解説：係助詞「や」（疑問）＋「まし」（「や」の結びで連体形）。「宮に参上しようかしらと迷う」。

Q44. 答え：反実仮想

解説：「ば～まし」。

Q45. 答え：ためらい・迷い

解説：係助詞「や」＋「まし」（「や」の結びで連体形）。「焼き捨て」は下二段「焼き捨つ」の未然形。「この手紙を焼き捨ててしまおうかしらと、独り思い乱れる」。

Q46. 答え：反実仮想

解説：「ましかば～まし」。「忘れ」は下二段「忘る」の未然形。「花を見ていたならば、つらいことも忘れただろうに」。

Q47. 答え：反実仮想

解説：「ば～まし」。「問は」は四段「問ふ」の未然形＋ば。「ざら」は打消「ず」の未然形。「人に（道を）尋ねていたならば、道に迷わなかっただろうに」。

Q48. 答え：ためらい・迷い

解説：「いづれ」＋係助詞「か」＋「まし」（「か」の結びで連体形）。「どれを取ろうかしらと、心が迷う」。

Q49. 答え：反実仮想

解説：「ましかば～まし」。

Q50. 答え：ためらい・迷い

解説：係助詞「や」＋「まし」（「や」の結びで連体形）。「この花を折ろうかしらと、立ち止まってためらう」。

【第3部】応用編

Q51. 答え：反実仮想

解説：「ましかば～まし」。「あら」はラ変「あり」の未然形、「ざら」は打消「ず」の未然形。「鏡に色や形があったならば、（物の姿は）映らなかっただろうに（実際は色も形もないので何でも映る）」。（徒然草・第二百三十五段）

Q52. 答え：反実仮想

解説：「ましかば～まし」。「訪は」は四段「訪ふ」の未然形。「をかしから」は形容詞「をかし」の未然形。「（あなたが）雪の朝に訪ねて来ていたならば、どんなに趣深かっただろうに」。

Q53. 答え：反実仮想

解説：「ば～まし」。「見」は上一段「見る」の未然形＋ば。「うれしから」は形容詞「うれし」の未然形。「あなたの手紙を見たならば、どんなにうれしかっただろうに」。

Q54. 答え：反実仮想

解説：「ましかば～まし」。

Q55. 答え：ためらい・迷い

解説：「何」＋係助詞「か」＋「まし」（「か」の結びで連体形）。「残さ」は四段「残す」の未然形。「何を形見に残そうかしらと思う」。

Q56. 答え：反実仮想

解説：「ば～まし」。「祈ら」は四段「祈る」の未然形＋ば。「心安から」は形容詞「心安し」の未然形。「仏に祈っていたならば、心が安らかだっただろうに」。

Q57. 答え：反実仮想

解説：「ましかば～まし」。「行か」は四段「行く」の未然形。「春の野に行っていたならば、若菜も摘んだだろうに」。

Q58. 答え：ためらい・迷い

解説：「いづれの日」＋係助詞「か」＋「まし」（「か」の結びで連体形）。「出で立た」は四段「出で立つ」の未然形。「どの日に出発しようかしら」。

Q59. 答え：反実仮想

解説：「ましかば～まし」。「急が」は四段「急ぐ」の未然形。「着か」は四段「着く」の未然形。「道を急いでいたならば、宵のうちに着いただろうに」。

Q60. 答え：反実仮想

解説：「ば～まし」。

Q61. 答え：反実仮想

解説：「（未然形）ば～まし」。「定まら」は四段「定まる」の未然形＋ば。「心が落ち着いていたならば、どんなに楽しかっただろうに」。

Q62. 答え：反実仮想

解説：「ましかば」の後ろの「～まし」が省かれた形。「あら」はサ変「あり」の未然形。「このような時に、母が生きていたならば（どんなによかっただろうに）と思う」。後ろが省かれていても、「ましかば」があれば反実仮想。

Q63. 答え：反実仮想

解説：「ば～まし」。「訪ね」は下二段「訪ぬ」の未然形＋ば。「語らは」は四段「語らふ」の未然形。「いかばかり」は「どれほど」。「心ある人を訪ねたならば、どれほど語り合っただろうに」。

Q64. 答え：反実仮想

解説：「ましかば～まし」。

Q65. 答え：反実仮想（実現できない希望）

解説：「～ましものを」。仮定の部分を言わずに、『『あれは真珠か、何か』とあの人が尋ねた時、『露だ』と答えて、（露のように）消えてしまえばよかったのに」と、実現できなかったことを望む（反実仮想の一種）。「な」は完了「ぬ」の未然形。「白玉か何ぞ」の「か」「何」は、人が尋ねた言葉の中のもので、「まし」にはかからない。仮定も、「まし」にかかる疑問の語もない「～ましものを」なので、反実仮想（実現できない希望）。（伊勢物語・第六段）

Q66. 答え：反実仮想

解説：「ましかば～まし」。「学ば」は四段「学ぶ」の未然形。「いかばかり」は「どれほど」。「私が若い時であったならば、どれほど学んだだろうに」。

Q67. 答え：ためらい・迷い

解説：「出で」（下二段「出づ」の連用形）＋係助詞「や」＋「せ」（サ変「す」の未然形）＋「まし」（「や」の結びで連体形）。「出かけようかしらと思うけれど、雨がまだ降っている」。

Q68. 答え：反実仮想

解説：「ましかば～まし」。

Q69. 答え：反実仮想

解説：「（未然形）ば～まし」。「なら」は断定「なり」の未然形＋ば。「めでたから」は形容詞「めでたし」の未然形。「いつも春であったならば、どんなにすばらしかっただろうに」。

Q70. 答え：ためらい・迷い

解説：「いかが」＋「まし」。「聞こえ」は謙譲語「聞こゆ」（申し上げる）の未然形。「お返事は、どのように申し上げたらよいだろうか」。

Q71. 答え：反実仮想

解説：「ましかば～まし」。「返しせ」は「返し（返歌・返事）」＋サ変「す」の未然形「せ」。「恨み」は上二段「恨む」の未然形、「ざら」は打消「ず」の未然形。「その夜のうちに返歌をしていたならば、あの人も恨まなかっただろうに」。

Q72. 答え：ためらい・迷い

解説：係助詞「や」＋「まし」（「や」の結びで連体形）。「籠もら」は四段「籠もる」の未然形。「山里にこもうかしらと思う」。

Q73. 答え：反実仮想

解説：「ば～まし」。

Q74. 答え：ためらい・迷い

解説：「誰」＋係助詞「か」＋「まし」（「か」の結びで連体形）。「誰に尋ねようかしらと、思い悩む」。

Q75. 答え：反実仮想

解説：「ましかば～まし」。「慰ま」は四段「慰む」（心が晴れる）の未然形。「古い友が、もっと私に話してくれていたならば、心が慰められただろうに」。

Q76. 答え：ためらい・迷い

解説：「いつ」＋係助詞「か」＋「まし」（「か」の結びで連体形）。「帰ら」は四段「帰る」の未然形。今の「いつか（そのうち）」ではなく、「いつ～か」とたずねる形。「いつ故郷に帰ろうかしらと、思いながら日を過ごす」。

Q77. 答え：反実仮想

解説：「ば～まし」。「晴れ」は下二段「晴る」の未然形＋ば。「見え」は下二段「見ゆ」の未然形。「雲が晴れていたならば、月も見えただろうに」。

Q78. 答え：反実仮想

解説：「ましかば～まし」。「咲か」は四段「咲く」の未然形。「贈ら」は四段「贈る」の未然形。「梅の花が咲いていたならば、折ってあなたに贈っただろうに」。

Q79. 答え：ためらい・迷い

解説：「誰」＋係助詞「か」＋「まし」（「か」の結びで連体形）。「譲ら」は四段「譲る」の未然形。「この笛を誰に譲ろうかしら」。

Q80. 答え：反実仮想

解説：「（未然形）ば～まし」。「なら」は断定「なり」の未然形＋ば。「上ら」は四段「上る」の未然形。「男の身であったならば、都にも上っただろうに」。

【第4部】入試レベル

Q81. 答え：反実仮想

解説：「せば～まし」。在原業平の有名な歌。「世の中に絶えて桜がなかったならば、春の心はのどかであろうに」。

Q82. 答え：反実仮想

解説：「せば～まし」。「なり」は断定「なり」の連用形、「せ」は過去「き」の未然形。「いかばかり」は「どれほど」。「うそのない世の中であったならば、どれほど人の言葉がうれしいことだろうに（実際はうそがあるので、すなおには喜べない）」。（古今和歌集・よみ人しらず）

Q83. 答え：反実仮想

解説：「ましかば～なまし」。「作りたら」は四段「作る」の連用形＋完了「たり」の未然形「たら」、「まさりな」は四段「まさる」の連用形＋完了「ぬ」の未然形「な」。「（漢詩の舟に乗って）これほどの詩を作っていたならば、名声が上がることも、もっとまさっていただろうに」。藤原公任が、和歌の舟ではなく漢詩の舟に乗ればよかったと悔やむ場面。（大鏡・三船の才）

Q84. 答え：ためらい・迷い

解説：「いかに」＋「まし」。「どうしようか、どうしたらよいだろう」。

Q85. 答え：反実仮想

解説：「ましかば～まし」＋「を」（～のに）。「語らふ」は四段「語らふ」（親しく語り合う）の連体形。「親しく語り合う人がいたならば、この月をいっしょに見ただろうに」。

Q86. 答え：反実仮想

解説：「せば～まし」。「習ひ」は四段「習ふ」の連用形＋過去「き」の未然形「せ」＋ば（「き」は連用形に付く）。「聞かせ」は下二段「聞かす」の未然形。「琴をよく習っていたならば、人にも聞かせただろうに」。

Q87. 答え：反実仮想

解説：「ましかば～まし」。「あら」はう変「あり」の未然形。「多から」は形容詞「多し」の未然形。「この山に桜があったならば、見に来る人も多かっただろうに」。

Q88. 答え：反実仮想（実現できない希望）

解説：「～ましものを」。仮定の部分を言わずに、「（あなたが来ないと知っていたら）ためらわずに寝てしまえばよかったのに。夜が更けて、西に傾くまでの月を見てしまったことよ」と、実現できなかったことを悔やむ（反実仮想の一種）。「な」は完了「ぬ」の未然形。（後拾遺和歌集・赤染衛門）

Q89. 答え：ためらい・迷い

解説：係助詞「や」＋「まし」（「や」の結びで連体形）を二つ並べた形。「遣ら」は四段「遣る」の未然形。「手紙を書こうかしら、使いをやろうかしらと、心が迷う」。

Q90. 答え：反実仮想

解説：「ば～まし」。「来」はカ変「来」の未然形「こ」＋ば。「心ゆか」は四段「心ゆく」（満足する）の未然形。「花の盛りに来ていたならば、もっと満足しただろうに」。

Q91. 答え：反実仮想

解説：「せば～まし」。「あり」はラ変「あり」の連用形＋過去「き」の未然形「せ」＋ば。「飛び行か」は四段「飛び行く」の未然形。「翼があったならば、あなたのところへ飛んで行っただろうに」。

Q92. 答え：反実仮想

解説：「ましかば～まし」。「あら」はラ変「あり」の未然形。「心強から」は形容詞「心強し」の未然形。「お供の人がいたならば、どんなに心強かっただろうに」。

Q93. 答え：ためらい・迷い

解説：疑問の語「何」＋「まし」。「これ（献上された紙）に何を書いたらよいだろうか」。中宮定子の言葉。（枕草子・跋文）

Q94. 答え：反実仮想

解説：「せば～まし」。「知り」は四段「知る」の連用形＋過去「き」の未然形「せ」＋ば（「き」は連用形に付く）。「ざら」は打消「ず」の未然形。「（あの人を）思いながら寝たので、あの人（夢に）見えたのだろうか。夢だと知っていたならば、目を覚まさないでいただろうに」。（古今和歌集・小野小町）

Q95. 答え：反実仮想

解説：「ましかば～まし」＋「を」（～のに）。「会は」は四段「会ふ」の未然形、「ざら」は打消「ず」の未然形。「早く帰っていたならば、このような雨にもあわなかっただろうに」。

Q96. 答え：反実仮想

解説：「ば～まし」。「だに」は「せめて～だけでも」。「交はさ」は四段「交はす」の未然形＋ば。「心通は」は四段「心通ふ」の未然形。「せめて手紙だけでも交わしていたならば、心が通い合っただろうに」。

Q97. 答え：反実仮想

解説：「せば～まし」。「捨て」は下二段「捨つ」の連用形＋過去「き」の未然形「せ」＋ば。「思ひ乱れ」は下二段「思ひ乱る」の未然形、「ざら」は打消「ず」の未然形。「出家していたならば、こんなに思ひ乱れなかっただろうに」。

Q98. 答え：反実仮想

解説：「ましかば～まし」。「見」は上一段「見る」の未然形。「落とさ」は四段「落とす」の未然形。「あの人（夢に）見えていたならば、涙を流しただろうに」。

Q99. 答え：ためらい・迷い

解説：「いづく」（どこ）＋係助詞「か」＋「まし」（「か」の結びで連体形）。「逃れ」は下二段「逃る」の未然形。「このつらい世の中から、どこへ逃れようかしら」。

Q100. 答え：反実仮想

解説：「ましかば」の後ろの「～まし」が省かれた形。「見せ」は下二段「見す」の未然形。「この花をあなたに見せていたならば（どんなによかっただろうに）と嘆く」。後ろが省かれていても、「ましかば」があれば反実仮想。